

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1

めざす学校像

生徒や保護者、地域等の期待に応えるべく本校の教育活動を維持し、令和5年9月閉部までの残り1年半、多部制単位制高校としてのミッション（使命）を果たす。

- 1 これまでの本校の役割を大切にし、閉部までに一人でも多くの生徒が卒業につながるためのより丁寧な指導を行い、生徒・保護者・地域等の思いに応えるよう教育活動をすすめる。
- 2 自らの将来に展望を持ち、主体的に学ぶ姿勢を身につけさせるとともに、希望する進路が実現できる力を育む。
- 3 人権を大切にし、自尊感情を向上させるとともに、社会性及び規範意識等を身に付けた生徒を育て、安全安心の学校づくりをめざす。

2 中期的目標

1 1年半後の閉部を見据え、生徒・保護者・地域等の思いに応える教育活動の一層の充実

- (1) 生徒一人ひとりの現状を正確に把握するため、生徒・保護者懇談や家庭訪問など家庭との連携をさらに深める。
- (2) 職員研修の充実により、更に人権意識と教育力の向上を図る。
- (3) 学校運営協議会や学校教育自己診断などを活用し、保護者・地域等と連携した教育活動を進める。

2 生徒の現状をふまえた「学びのシステム」及び進路指導体制の充実

- (1) 希望する進路の実現に向けた「学びのシステム」を充実させる。
 - ア 桃谷高校キャリア教育「ももだにプロジェクト」を継続して実践する。
※進路未定率の減少（R01:8.7%、R02:21.5%、R03:6.2%）
- (2) 充実した学びなおしの学習環境の一層の充実。
 - ア 多様な学習履歴を持つ生徒の意欲を引き出すため、一人ひとりに合ったきめ細かな指導を行う。
 - イ 希望進路実現のための自学自習等の機会の提供。
- (3) 生徒の授業評価や授業見学週間を通して授業力を向上し、全教科で「わかる授業」の実現をめざす。
※研究授業・研究協議を実施して授業力の向上をめざす。
※生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすい」の肯定的回答率（R01:77.5%、R02:81.3%、R03:84.1%）を80%以上維持する。

3 生徒の自尊心を育み社会性の向上を図る取組み及び人権教育の一層の充実

- (1) 「総合的な探究の時間」や特別活動等で人権教育を充実。
 - ア 人権教育でワークショップなどの自分事に関連づける内容を研究する。
- (2) 中退防止PTを中心に、生徒の背景分析と生徒指導体制を充実する。
- (3) 教育相談体制を充実し、組織的な支援体制を一層すすめる。
 - ア SCやSSW等の外部機関との連携を通してカウンセリング体制を強化し、必要に応じたケース会議を持つ。
- (4) 生徒が達成感を実感できる自主活動（生徒会活動等）を充実し、社会性を育成する。
 - ア 生活指導の徹底と自主活動や学校行事などの満足度を高める環境づくりを行う。
※生徒向けの学校教育自己診断の「担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる」の肯定的回答率（R01:72.2%、R02:61.6%、R03:67.1%）を70%以上。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

府立桃谷高等学校（ⅠⅡ部）

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R 3年度値]	自己評価
1 1年半後の閉校を見据え、生徒・保護者・地域等に思いに応える教育活動の一層の充実	<p>(1) 保護者・家庭等との連携と閉校までの教育活動の充実</p> <p>(2) 学校力向上のための職員研修の充実</p> <p>(3) 「働き方改革」に係る意識改革と業務の効率化</p> <p>(4) 地域連携の一層の推進</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者懇談や家庭連絡を通じて、生徒の状況を正確に把握するとともに、単位修得へと結びつくように指導を行う。 閉校までの生徒のニーズに応えられる取組みの充実。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員力を向上させるための研修の実施。 (オンライン研修等の充実) <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「働き方改革」に係る意識改革のための情報提供を行うとともに、安全衛生委員会を通じた安全安心の職場環境づくりと業務の効率化を図る。 <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域と連携した防災への取組みを推進し、危機管理に対して生徒の安全を最優先した計画を立てる。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者懇談の実施率、家庭訪問件数（前年比を維持） [前期 45%、後期 43.1%、家庭訪問 63 件] 学校教育自己診断「生徒のニーズ」肯定率 90%以上 [89.0%] <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権及び支援教育に係る研修の肯定率 80%以上 [100%] <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ストレスチェックの「総合的健康リスク」の低減 [数値 78] 超勤時間の縮減 <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域と連携した防災研修の実施 [1 回、肯定率 93.2%] 学校教育自己診断「災害時の行動について具体的に知らされている」生徒肯定率 70%以上 [81.8%] 	
2 生徒の現状をふまえた「学びのシステム」及び進路指導体制の充実	<p>(1) 「学びのシステム」の構築</p> <p>ア キャリア発達を促す「学びのシステム」の構築</p> <p>イ 実社会に触れる学びの実践</p> <p>(2) 授業力の向上</p> <p>ウ 「確かな学力」を育成するための授業研究の実施</p> <p>エ 「確かな学力」を育成する授業の研究</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 桃谷高校キャリア教育「ももだにプロジェクト」での各教科・分掌等の具体的取組みの設定。 進路実現に向け意欲を高める「キャリア・ガイダンス（進路担当者面談）」及び「キャリア・カウンセリング（担任面談）」の充実。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路説明会において実社会に触れる学びが実現できるよう内容の充実を図る。 <p>(2)</p> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「わかる授業」をテーマに生徒が主体的に取り組む授業をめざした ICT を活用した授業研究の実施。 授業見学週間を年 2 回実施（6 月，11 月）。 <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科毎に、授業での「思考力・判断力・表現力」の育成をテーマとした指導方法を研究。「校内研修チーム」で授業実践をすすめ共有。 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科・分掌等において育成したい能力および具体的取組等の作成 進路未定率の減少 10%以下 [6.3%] 学校教育自己診断（生徒用）「進路について考える機会がある」80%以上 [81.8%] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路説明会の生徒評価肯定率 90%以上 [94.6%] <p>(2)</p> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断（生徒）「聴覚やコンピュータの活用」80%以上 [82.9%] 見学回数 1 人当たり各 2 回以上 <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断（生徒用）「教え方に様々な工夫をしている」80%以上 [89.7%] 学校教育自己診断（生徒用）「授業で考えをまとめたり、発表する機会がある」50%以上 [59.1%] 	

府立桃谷高等学校（ⅠⅡ部）

<p style="text-align: center;">3 生徒の自尊心を育み社会性の向上を図る取組み 及び人権教育の一層の充実</p>	<p>(1) 総合学習や特別活動等を活用した人権教育の充実と「生きる力」育成の取組み</p> <p>(2)(3) 支援教育・規律指導・教育相談の三位一体による教育活動の展開</p> <p>(4) 社会性育成のための取組み ア 達成感の得られる自主活動や学校行事の充実 イ 居場所作りと安全・安心の向上</p>	<p>(1) ・人権学習プログラムを「ももだにプロジェクト」の中に位置づけ、参加体験型も含めて系統的に実施。</p> <p>(2)(3) ・支援検討の専門家及び関係機関の協力を得た支援検討会議の実施。 ・教育相談に関して、組織として教育相談担当と支援検討担当を別に設け充実を図る。 ・学校独自でSSWを招聘し、SSWや関係機関(行政・福祉・司法)等と連携した支援の実施。 ・授業を大切にすることを念頭におき、支援とカウンセリングの観点を持った毅然とした規律指導を行う。</p> <p>(4) ア ・閉部を控え生徒数減の中でも生徒会など自主活動の工夫と充実を図る。 ・魅力ある行事への工夫・改善。 イ ・地域人材の協力を得て図書館の整備を行い、図書館を居場所としての充実を図る。</p>	<p>(1) ・人権学習実施後の生徒評価 肯定率 90%以上 [95%]</p> <p>(2)(3) ・支援検討会議や、関係機関を交えたケース会議等の実施回数 (必要回数) [各2回、14回] ・指導に対する生徒の納得度 肯定率 80%以上 [88.5%]</p> <p>(4) ア・生徒会活動等の満足度 70%以上 ・行事参加者数の満足度 肯定率 80%以上を維持[文化祭 94%、校外学習 92%、体育祭など] イ・図書館整備の実施 [26回] ・図書室利用者 年間 2000名以上維持 [2177名]</p>	
---	--	--	---	--